



光桂寺だより

第213号

真宗大谷派 光 桂 寺 〒838-0133 福岡県小郡市八坂201
TEL 0942-72-2432 FAX 0942-72-2486 印刷 片山印刷(有)

お盆を迎える



新型コロナウイルスによる世界中の混乱は、まだ収束していません。見えないものに対する恐怖心が私たちを震え上がらせてしまったと思います。このウイルスだけでなく、私たち人類を脅かす菌やウイルスは、身の回りにいるかもしれないし、また現れるかもしれない。

私たちの抗体を力強くすることがまず必要ではないでしょうか。そのためには日頃からの健康に対する心がけが大切でしょう。また心の問題としては、しっかりと現状を把握し、自分の考えで行動すること、そして最終的にはウイルスたちとの共存を目指さねばならないと思います。

さて真宗におけるお盆についての考え方は、私たちの「いのち」を支えてくださっている、あらゆるご恩に感謝をし、いま生かされている幸せを喜び、感謝の念仏を申させていただくということであります。

単なる先祖供養ということではありません。お盆は「亡き人を案じるより、亡き人から案じられている我が身」に気付くことが求められるのであります。

お盆を通して私の「いのち」が、亡き人とおして、生かされていることに気付かされることこそ供養ということであります。

お盆は真宗では、八月十三日から十六日までの四日間を言います。

◎お盆のおかざり

門徒ものしり手帳の次のページをご覧ください

P7…意義、作法の全般 P…花

P…打敷 P36…きりこ を参照ください

金属の仏具（花瓶やローソクたては、陶器のものは使いません）を金属磨きで丁寧にみがき、お内佛（仏壇）には打敷（うちしき―三角形の布）を掛けます。出来れば夏物（白地）を用意ください。

一、お花は、マキや松、ひのきを真（シン）にして、季節の花を添えて立てます。

二、お内佛（仏壇）内部のお供えは、小餅やおだんごなど、をお供えします。

三、お内佛（仏壇）の中には、お茶、お水、お酒、ビールの缶、などをお供えしません。

四、仏前には、調理をしたお膳や折詰めなどはお供えしません。

五、盆提灯としては、真宗では「きりこ」を掛けます。

六、迎え火、送り火は真宗ではいたしません。



永代経志寄付者芳名

誠にありがとうございました。

四月

お盆供養、全戦没者追悼法要

をいたします

左記のように執り行ないますので、ご参詣くださるようご案内申し上げます。

○八月十二日(水)

盆供養、全戦没者追悼法要

おつとめ 午前九時

お逮夜、ご法事参りについて

〈枕直し(枕経)〉

住 職

〈通夜〉

副住 職

〈逮夜〉

住 職 初七日、初命日、四十九日

住職代理 そのほかの逮夜

〈法事〉

住 職

住職代理

※止むを得ない場合はこの限りではありません

初盆について

亡くなられて初めて迎えるお盆を初盆と言いますが、光桂寺は四十九日をまだ迎えていなくても、可能な限りその年に初盆のお参りをいたします。

初盆のお参りは、習慣では八月十三日に廻っていますが、十三日以前でも構いません。ご希望があれば前もってお知らせください。

なお、初盆にお参りする時間につきましては、効率よく廻るため、順序を八月初めまでに決めて、それから各御宅にこちらからお知らせいたします。

次に示しているように、今年も沢山の方が初盆を迎えられます。初盆参りにつきましては、ご希望の時間には中々添えないこともありますので、ご承知おきください。

初盆を迎える方々



末次 八女 北野 末次 筑後 十楽 北野 小郡 末次 小郡 志免



野畑 本郷 福岡 福岡 福岡 小郡 みやぎ 光行 末次 十楽 福童 八坂 小郡 八坂 小郡 うきは 末次 八坂 北野

任職の徒然なる：

ひとりごと

お釈迦様は二千五百年以上の昔に、現在の私たちに生きる教えを遺してくださいました。まずお釈迦様は、私たちが生きている状態、人生を分析され、私たちの一生をどのようなものかを明らかに示されました。

それは避けることが出来ない生老病死の人生（避けることが出来ない苦の現実）であると述べられています。

今騒然としているウイルスのことも、まさに「病―やまい」が私たちに問題を突きつけているということではないでしょうか。感染や発病も、条件が整わねば罹らないということです。これをお釈迦様は「縁」ということで示されました。ウイルスにより死に至る方もおられます。しかし発病して死に至るには、条件が整わねば至りません。

医の観点からの策として、最初からこのウイルスは接触による感染であるので「三密を守り、手洗い（うがい）」をしつかりしていくことが示されています。この医の立場からの提案が、罹患発病の縁を整えない一番の事項ではないでしょうか。

マスクの効果については、医療用のマスク以外は、効果が大きいとはされていないようです。ところが現状は予防の手段として、精神の面へ

と向かい「患者かもしれない」という考えを生み出しているように思えます。そこからマスクの着用が広まって来ました。

さらに行動の先取りから、例えばマスクを常に着用、商店への立ち入りの規制、レジの並び方の強制、間隔を置いた座席の配列などを、重要してしまっていると私は考えています。

このような心を生み出すのは、私たちの心の奥底にある「死」の恐怖からと思えます。そこから強要とも考えられる「要請」に素直に従ったということではないでしょうか。

現状の問題点としては、お願いがすり替ることの繰り返し、お願いが各自の考えを基に、強要となってしまうことの懸念です。「新しい生活」と言う「お願い（？）」が呼び掛けられています。これはまさにもう一步強権へ向かいかねないと言え言えすぎでしょうか。最大の関心を持ち、そうならない行動が、これから先、各自に必要なと思われまます。

子どもたちへの影響も心配です。大人の動揺が子どもたちの心の病へと繋がります。心配なのは子どもたちの学力の低下、意欲の低下、子供同士の支えあう力の減少があります。子供同士の信頼関係が薄くなることも懸念されます。

マスクの常時着用は、表情が見えない読めないことから、対話が出来ない、信頼関係の崩壊に繋がっていませんか。子どもとの関係は最悪となりかねません。

経済生活の破綻は、これぞ最大の課題であり、

これからの再建復活は非常に困難でしょう。そのことから貧困はさらに加速し、信頼関係の構築の困難も拍車がかかり、社会の崩壊時代が到来しないとも限りません。そう成らねば好いと思う次第です。

心の息苦しさを感じている昨今の皆の状態を一日でも早く無くしていくには、ウイルスとの共生の心を持ち、各自の普通の生活を、勇気を持って取り戻していくことではないでしょうか。



春の永代経は無事勤め
させていただきました

春の永代経は、変則ながら法要のみとなりましたが、五月九日に九名の参詣の方を迎えまして、護寺のためにお力添えをいただいたご門徒や、その他多くの方に感謝を込めながら、十三時より勤めさせていただきました。大変ありがとうございました。

「肥山六来」さま一〇二才でご命終

東福童の肥山六来さま(肥山好美さんの父親)が、去る四月二十日にお亡くなりになりました。大正六年生まれの満一〇二才でした。

光桂寺の門徒さんの中で、男性最長老でありました。あと五日で一〇三才ということで、誕生日を楽しみにしておられたようでしたが、残念なこととなりました。心よりお悔やみ申し上げます。

「佐々木トヨカ」さま一〇〇才でご命終

京手の佐々木トヨカさま(佐々木幸男さんの母親)は、今年四月二十二日に満百歳となられました。誠に残念ながら五月三十日にお亡くなりになりました。光桂寺だよりで百歳お誕生のお知らせが出来ない内のご逝去、悔やまれることです。心よりお悔やみ申し上げます。

婦人会追弔会のお知らせ

期日 九月十九日(土)

〇十三時より追弔会

〇十四時より法話

講師 蒲原 稔彦師

昨年この時期から今年までに亡くなられた、光桂寺仏教婦人会の会員の方々の追弔法要であります。法要(お勤め)と法話があります。



講師紹介
大川市「西宗寺」住職
蒲原 稔彦 師

上山奉仕団参加者を募集します

ご本山の受け入れが不透明ではありますが、今年も上山(京都の東本願寺に詣でること)奉仕をいたしたいと考えています。過去総代さんを中心に参加していただいていたが、希望の皆さん方もお誘いいたします。くわしくは後日チラシを作成しますが、凡その内容をお知らせします。

期 日 二〇二〇年十一月十四日(土)

十六日(月)

場 所 東本願寺同朋会館

募集人員 五〜十名程度

参加費 未定(門徒会からの補助金が予定されるため)



東本願寺境内 右御影堂 左阿弥陀堂

納骨堂のお供え

納骨堂内の各自の前面に、お供えやお花(生花も造花も)は、管理上支障がありますので申し訳ありませんが、絶対にご遠慮ください。手

ぶらでのお参りを願います。
もし生花をお持ちの場合のみ、ご面倒ながら納骨堂入り口前の、花立てに立てていただければ幸いです。



ここには何も供えないこと

謹んでお悔やみ申し上げます

四月十二日	光行
四月十二日	末次
四月十六日	十楽
四月二十日	福童
四月二十四日	八坂
四月二十八日	小郡
四月三十日	八坂
五月三十日	小郡
六月十六日	うきは
六月二十七日	末次
七月 四日	八坂
七月 七日	北野